

栃木県の農林水産業の概要

特徴・取組

栃木県は、北部から西部にかけて那須連山、帝釈（たいしゃく）山地、足尾（あしお）山地の山岳地帯があり、南部には関東平野が広がり、那珂（なか）川、鬼怒（きぬ）川、渡良瀬（わたらせ）川が流れ、水資源が豊富である。

また、東京から60～160kmに位置し、東北縦貫自動車道や北関東自動車道、東北新幹線などの交通網も発達している。

栃木県の産業構造は、全国有数のものづくり県として発展を遂げた第2次産業、特に製造業の割合が高くなっている。

このため、県内総生産に占める第2次産業の構成比は44.2%で全国2位。また、豊かな農産物や豊富で良質な水に恵まれ、首都圏の食料供給基地としての役割を担っている

栃木県では、食に関連する産業の振興を図ることにより、食をテーマに地域経済が成長・発展し、活力あふれる「フードバレーとちぎ」を目指す取組を推進している。

農業では、肥沃な農地と豊富な水資源、穏やかな気候に恵まれ、米麦、園芸作物、畜産など多彩な農畜産物が豊富である。

林業では、豊富な森林資源を活用し、素材生産、しいたけ等の特用林産物の生産が盛んである。

水産業では、那珂川や鬼怒川などの内水面で、ます類やあゆを中心に漁業や養殖が盛んである。

栃木県は、令和5年に新たな「園芸大国とちぎづくり推進方針」を策定し先端技術を活用した低コストで持続可能な施設園芸や、情勢の変化に対応できる大規模露地野菜産地の育成を推進している。

いちごやトマトの生産では、高い技術力を有しており、今後、ICT等の技術を活用することにより、収量や品質の更なる向上を目指している。

また、開発された品種や優れた生産技術の導入などにより、にらやアスパラガス、日本なしなどを主力品目として生産拡大を目指している。

主な農林水産物

米

コシヒカリ・とちぎの星・なすひかり等を作付け。県育成のとちぎの星は「令和の大嘗祭」の献上米。（収穫量全国8位）



麦

二条大麦（ビール麦）を中心に小麦や六条大麦などの麦類を作付け。（二条大麦の収穫量全国2位）



いちご

県育成のとちあいかやとちおとめ、スカイベリーが栽培され、収穫量は半世紀以上日本一。（収穫量全国1位）



トマト

高軒高（こうのきだか）ハウスやICT等新技術を取り入れ多収量の周年栽培。（収穫量全国5位）



にら

いちご、トマトに次ぐ産出額を誇る重要野菜。県育成のゆめみどりを普及することにより収穫量日本一を目指す。（収穫量全国2位）



かんぴょう

県央・県南部の畑作地帯がゆうがおの主産地であり、国内生産量の9割以上を占める。（収穫量全国1位）



アスパラガス

水田の活用や畜産農家と連携した良質な堆肥の活用などにより県内全域で作付け。（収穫量全国4位）



日本なし

幸水・豊水が主力品種だが、あきづきや県育成ののっこりなどの晩生種の導入により、出荷期間が拡大し海外へも輸出。（収穫量全国4位）



乳用牛（生乳）

県北部を中心に北海道に次ぐ、5.1万頭を飼養、生乳の生産も盛ん。（飼養頭数全国2位）



肉用牛

「とちぎ和牛」としてブランド化され、アメリカ、シンガポール等に輸出。（飼養頭数全国6位）



栃木県内の各地域における農林水産物

県北地域

【農畜産物】 水稲、二条大麦、小麦、いちご、にら、なす、トマト、ねぎ、うど、アスパラガス、かんしょ、日本なし、りんご、そば、スプレーぎく、リンドウ（切り花類）、乳用牛（生乳）、肉用牛、豚、鶏卵

【林産物】 生しいたけ、まいたけ

【水産物】 にじます、あゆ、ヤシオマス

県南地域

【農畜産物】 水稲、二条大麦、小麦、六条大麦、そば、いちご、かんぴょう、なす、トマト、たまねぎ、はくさい、かき菜、アスパラガス、にら、ぶどう、トルコギキョウ（切り花類）、肉用牛、豚

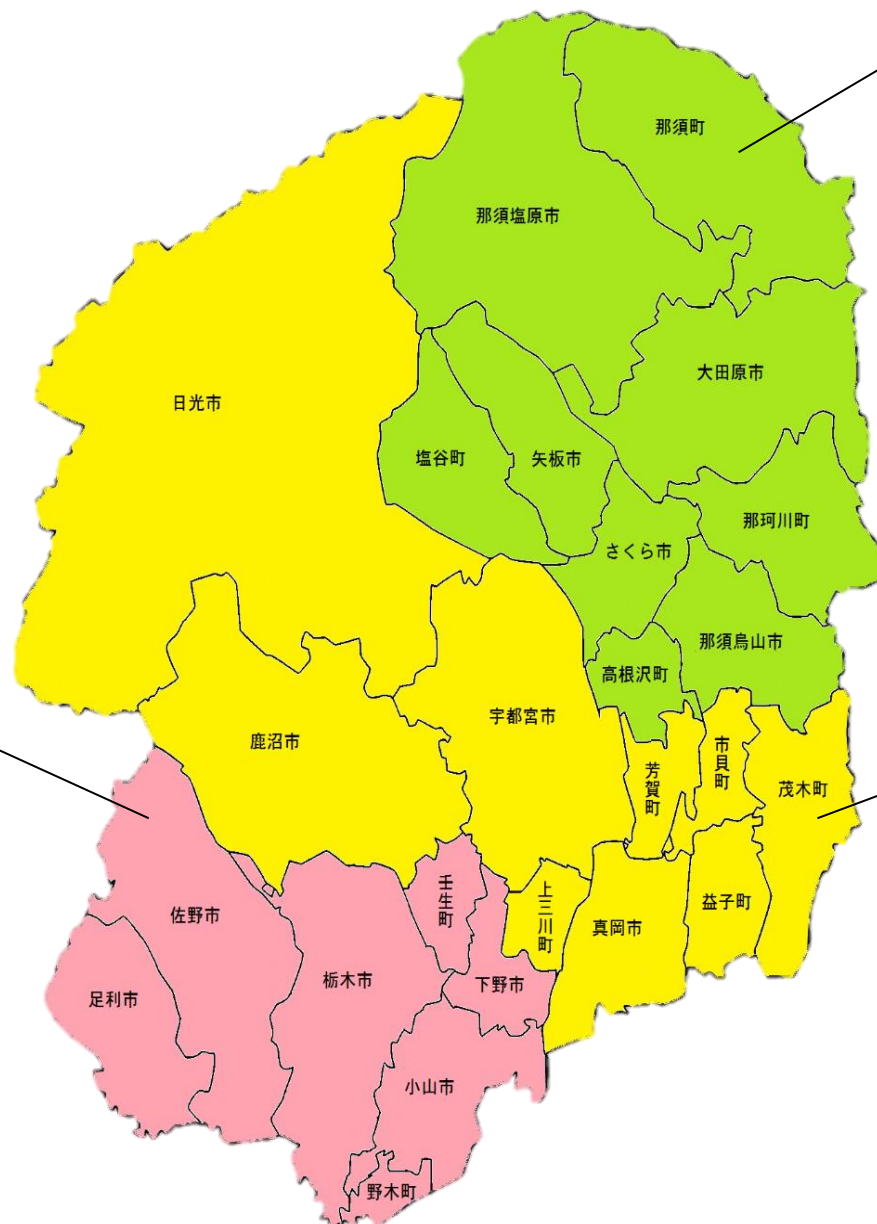
【林産物】 生しいたけ

県央地域

【農畜産物】 水稲、二条大麦、小麦、いちご、六条大麦、落花生、にら、こんにゃくいも、さといも、なす、トマト、たまねぎ、はくさい、アスパラガス、日本なし、そば、えごま、シクラメン（鉢もの類）、スプレーぎく、リンドウ（切り花類）、鶏卵

【林産物】 生しいたけ

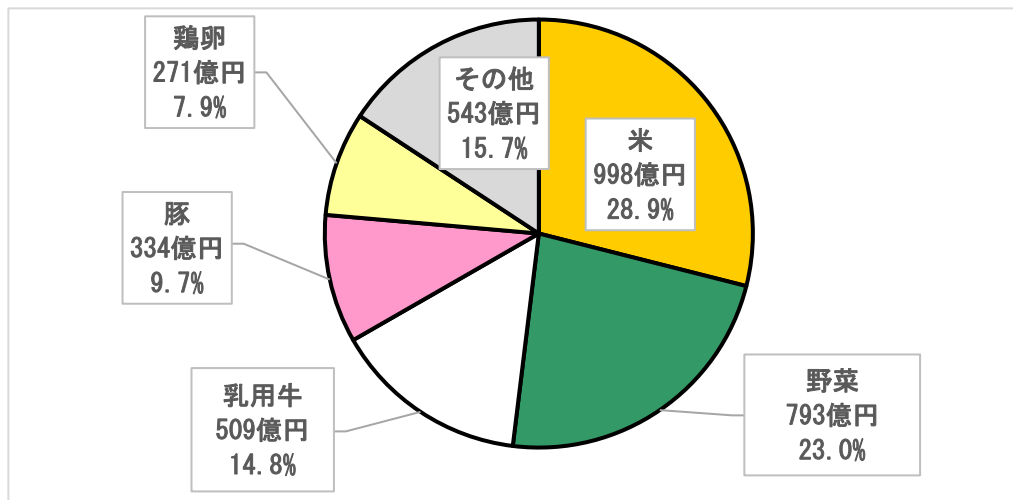
【水産物】 にじます、あゆ



栃 木 県 の 農 業 (1)

- ・ 農業産出額は3,448億円で全国9位。うち米が998億円(28.9%)、野菜が793億円(23.0%)、畜産が1,399億円(40.6%)。
- ・ 農畜産物の生産状況は、いちご、かんぴょうが全国1位、二条大麦、にら、乳用牛、生乳が2位、アスパラガス、日本なしが4位。

農業産出額の概略



農畜産物の生産状況

区 分	年次	栃 木 県	全 国	全国順位
二条大麦	収穫量	R7 31,000 t	152,900 t	2 *
トマト	収穫量	R6 29,000 t	663,600 t	5
にら	収穫量	R6 8,060 t	55,200 t	2
アスパラガス	収穫量	R6 1,760 t	22,300 t	4
いちご	収穫量	R6 25,700 t	156,600 t	1
日本なし	収穫量	R6 14,600 t	172,700 t	4
肉用牛	飼養頭数	R7 83,500 頭	2,595,000 頭	6
乳用牛	飼養頭数	R7 51,400 頭	1,293,000 頭	2
生乳	生産量	R7 351,773 t	7,418,222 t	2
かんぴょう	収穫量	R4 164 t	165 t	1

出典: 「作物統計」、「野菜生産出荷統計」、「果樹生産出荷統計」、「畜産統計」、「牛乳乳製品統計」、「地域特産野菜生産状況」

農業産出額のデータ

区 分	栃木県の農業産出額	全国の農業総産出額	全国順位
農業産出額	3,448 億円 (100.0)	107,801 億円 (100.0)	9
米	998 億円 (28.9)	25,524 億円 (23.7)	9
麦類	43 億円	582 億円	2 *
雑穀	5 億円	87 億円	8
豆類	4 億円	621 億円	17
いも類	14 億円	2,565 億円	19
野菜	793 億円 (23.0)	25,510 億円 (23.7)	10
果実	91 億円 (2.6)	10,112 億円 (9.4)	25
花き	72 億円	3,423 億円	14
工芸農作物	1 億円	1,577 億円	37
その他作物	22 億円	583 億円	4 *
畜産	1,399 億円 (40.6)	36,654 億円 (34.0)	6
肉用牛	268 億円	7,861 億円	5
乳用牛	509 億円	10,035 億円	2
生乳	471 億円	8,937 億円	2
豚	334 億円	7,567 億円	8
鶏	285 億円	10,170 億円	13
鶏卵	271 億円	5,764 億円	7
ブロイラー	x 億円	4,259 億円	- *
その他畜産物	3 億円	1,021 億円	20
加工農産物	7 億円	565 億円	13

出典: 「令和6年農業総産出額及び生産農業所得(全国)」、「令和6年農業産出額及び生産農業所得(都道府県別)」
注: () は農業総産出額及び農業産出額を100%とした割合である。

都道府県の農業、林業、漁業の表の見方

・令和8年3月31日時点における最新の統計等の公表データを使用

・表中に使用した記号は次のとおり

「O」: 単位に満たないもの(例:0.4t→0t)

「-」: 事実のないもの

「…」: 調査を欠くもの

「x」: 秘密を保護するため統計数値を公表しないもの。

「*」: 秘密を保護するため統計数値を公表していない都道府県を除いた順位

栃 木 県 の 農 業 (2)

- ・耕地面積は12万400haで全国9位。うち田が9万3,600ha、畑が2万6,800ha。
- ・農業経営体数は2万5,917経営体で全国10位。うち法人経営体数が638経営体で26位。
- ・国、市町村認定及び都道府県認定経営体数は7,450経営体で全国8位。うち法人数が560法人で23位。
- ・農業生産関連事業は、農家レストランの年間販売（売上）金額が14億円で全国8位、事業体数は50事業体で4位。

耕地面積

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
耕地面積	120,400 ha	4,272,000 ha	9
田	93,600 ha	2,319,000 ha	7
畑	26,800 ha	1,952,000 ha	16
普通畑	22,300 ha	1,118,000 ha	15
樹園地	2,010 ha	248,600 ha	36
牧草地	2,490 ha	585,900 ha	12
参考) 総土地面積	6,408.09 Km ²	377,979.74 Km ²	20

出典：「令和6年耕地面積(7月15日現在)」、「令和8年全国都道府県市区町村別面積調(1月1日時点)」(国土交通省国土地理院)

荒廃農地面積

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
荒廃農地面積	1,986 ha	256,667 ha	35

出典：「令和6年度の荒廃農地面積(令和7年3月31日現在)」

農業経営体数、農家数及び集落営農数

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
農業経営体数	25,917 経営体	836,054 経営体	10
法人経営体数	638 経営体	33,819 経営体	26
総農家数	38,802 戸	1,394,135 戸	11
販売農家数	25,240 戸	792,808 戸	10
参考) 世帯総数	796,923 世帯	55,830,154 世帯	19
集落営農数	233 集落営農	13,952 集落営農	26

出典：「2025年農林業センサス(令和7年2月1日現在)」、「令和2年国勢調査」(総務省統計局)、「令和7年集落営農実態調査結果(令和7年2月1日現在)」

担い手への農地の集積状況

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
担い手への集積面積	68,350 ha	2,627,068 ha	8
集積率	56.8 %	61.5 %	14

出典：「農地中間管理機構の実績等に関する資料(令和6年度版)」

基幹的農業従事者数及び認定農業者数

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
基幹的農業従事者数	33,575 人	1,036,228 人	9
男	21,228 人	659,332 人	9
女	12,347 人	376,896 人	10
65歳以上	23,626 人	721,311 人	10
基幹的農業従事者数に対する65歳以上割合	70.4 %	69.6 %	-
国、市町村認定及び都道府県認定経営体数	7,450 経営体	212,136 経営体	8
法人数	560 法人	29,684 法人	23
参考) 人口総数	1,933,146 人	126,146,099 人	19

出典：「2025年農林業センサス(令和7年2月1日現在)」、「認定農業者の認定状況(令和7年3月末現在)」、「令和2年国勢調査」(総務省統計局)

農業生産関連事業の年間販売（売上）金額及び事業体数

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位	
農産加工	総額	25,555 百万円	1,006,107 百万円	12
	事業体数	710 事業体	26,910 事業体	9
農産物直売所	総額	25,938 百万円	1,134,381 百万円	16
	事業体数	510 事業体	20,960 事業体	18
観光農園	総額	1,337 百万円	39,113 百万円	12 *
	農業経営体数	140 経営体	4,350 経営体	11
農家民宿	総額	42 百万円	4,933 百万円	25 *
	農業経営体数	30 経営体	770 経営体	5
農家レストラン	総額	1,386 百万円	39,900 百万円	8 *
	事業体数	50 事業体	1,390 事業体	4

出典：「令和6年度6次産業化総合調査結果」

栃 木 県 の 林 業

- ・ 林業産出額は109.2億円で全国11位。うち木材生産が69.5億円、栽培きのご類生産が39.4億円。
- ・ 林産物の生産状況は、素材生産量が全国10位、生うるしが全国3位、広葉樹が5位、生しいたけ、まいたけが9位、生きくらげ類が10位。

林業産出額

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
林業産出額	109.2 億円	4,769.8 億円	11
木材生産	69.5 億円	2,369.4 億円	11
栽培きのご類生産	39.4 億円	2,322.7 億円	17

出典：「令和6年林業産出額」

林産物の生産状況

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
素材生産量	633 千m ³	19,763 千m ³	10
針葉樹	568 千m ³	18,398 千m ³	11
すぎ	439 千m ³	11,716 千m ³	10
ひのき	103 千m ³	3,019 千m ³	11
広葉樹	65 千m ³	1,365 千m ³	5
生しいたけ	生産量 2,373 t	61,959 t	9
まいたけ	生産量 246 t	56,609 t	9 *
生きくらげ類	生産量 61 t	1,693 t	10 *
生うるし	生産量 75 kg	1,792 kg	3

出典：「令和6年木材統計」、「令和6年特用林産基礎資料」

林野面積

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
林野面積	338,197 ha	24,744,214 ha	28
国有林	118,439 ha	7,117,059 ha	15
民有林	219,758 ha	17,627,155 ha	34
人工林面積	153,668 ha	10,059,386 ha	28

出典：「2025年農林業センサス(令和7年2月1日現在)」

製材工場数

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
製材工場数	97 工場	3,547 工場	13
製材用素材の入荷があった工場数	97 工場	3,492 工場	13
国産材のみ	93 工場	3,013 工場	11
国産材と輸入材	4 工場	386 工場	25

出典：「令和6年木材統計」

林業経営体数

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
林業経営体数	956 経営体	23,300 経営体	6
法人経営体数	74 経営体	3,813 経営体	19

出典：「2025年農林業センサス(令和7年2月1日現在)」

栃 木 県 の 水 産 業

・水産物の生産状況は、内水面漁業のあゆが全国4位、内水面養殖業のあゆが4位、にじますが5位。

漁業産出額

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
海面漁業・養殖業産出額	0 億円	14,785 億円	-
海 面 漁 業	0 億円	8,894 億円	- *
海 面 養 殖 業	0 億円	5,891 億円	- *

出典：「令和6年漁業産出額」

漁業経営体数

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
海面漁業経営体数	0 経営体	65,662 経営体	-
内水面漁業経営体数	71 経営体	4,076 経営体	18

出典：「2023年漁業センサス(令和5年11月1日現在)」

漁業就業者数

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
海面漁業就業者数	0 人	121,389 人	-
男	0 人	109,757 人	-
女	0 人	11,632 人	-

出典：「2023年漁業センサス(令和5年11月1日現在)」

漁船隻数

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
漁船隻数	0 隻	109,284 隻	-
動力漁船	0 隻	58,907 隻	-

出典：「2023年漁業センサス(令和5年11月1日現在)」

水産物の生産状況

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
海面漁業・養殖業生産量	- t	3,589,121 t	- *
海面漁業漁獲量	- t	2,786,195 t	-
海面養殖業収穫量	- t	802,927 t	- *
内水面漁業・養殖業生産量	912 t	47,046 t	13
内水面漁業漁獲量	180 t	17,915 t	10 *
あゆ	176 t	1,414 t	4
内水面養殖業収穫量	732 t	29,131 t	9
にじます	283 t	5,202 t	5
あゆ	305 t	3,487 t	4

出典：「令和6年漁業・養殖業生産統計」

漁業生産関連事業の年間販売（売上）金額及び事業体数

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位	
水産加工	総額	0 百万円	193,147 百万円	-
	事業体数	0 事業体	1,160 事業体	37
水産物直売所	総額	0 百万円	34,259 百万円	- *
	事業体数	0 事業体	780 事業体	33
漁家民宿	総額	0 百万円	5,440 百万円	- *
	漁業経営体数	0 経営体	540 経営体	30
漁家レストラン	総額	0 百万円	13,511 百万円	- *
	事業体数	0 事業体	380 事業体	30

出典：「令和6年度6次産業化総合調査結果」

栃木県の農林水産業の話題等（1）

とちあいかの作付面積が県全体の8割まで拡大

いちご「とちあいか」は食味がよく品質が優れていることから、消費者や市場から高い評価を受けるとともに、生産者からも単収が3割程度多く、病害に強く栽培しやすいなど、所得向上に大きく貢献する点が高く評価されている。

令和4年に策定した「いちご王国・栃木」戦略に基づき、とちあいかの主力品種への大転換を進めた結果、急速に面積が拡大し、令和7（2025）年産では、とちあいかの作付面積が397haと県全体の作付面積の約8割を占め、栃木県の主力品種となった。

引き続き、「いちご王国・栃木」の更なる発展に向けて生産者、市町、農業団体などの関係者と一体となって、「とちあいか」の高品質生産や更なるブランド化に取り組んでいく。



とちあいか食味向上検討委員会

栃木県産農産物輸出促進方針の策定

栃木県では、農業団体や輸出事業者と連携した海外プロモーションや本県へのバイヤー招へい等により、海外における県産農産物の販路開拓や認知度向上に取り組んできた。

その結果、特定の品目において東南アジアを中心とした複数の国・地域に安定的な販路が構築されるなど一定の成果が得られ、県産農産物の輸出額は増加傾向にあるものの、本県は大消費地に近く国内需要が高いことから、輸出に取り組む産地の広がりには限定的な状況にある。

そこで、海外ニーズや国際情勢の変化を的確に捉え、オール栃木体制で本県の強みを生かした戦略的な輸出拡大に取り組むため、県産農産物の輸出を促進するための考え方や取組の方向性を示す「栃木県産農産物輸出促進方針」を策定し、更なる海外需要の喚起、販路の開拓や、輸出に取り組む産地拡大に向けた取組の強化を図ることとし、令和8（2026）年度から令和12（2030）年度までの5か年間を対象とした新たな方針を策定した。

基本方針

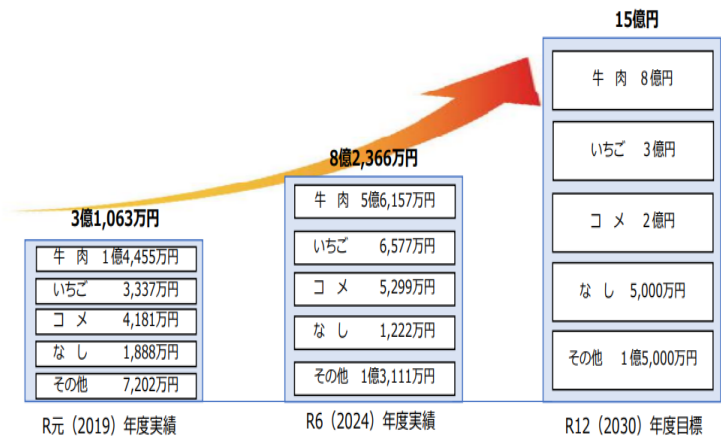
- ・本県ならではの強みがある輸出促進品目の選定
- ・国の輸出実績や県の取組の成果を生かすことのできる国・地域を輸出先のターゲットとして選定

目指す姿

農産物の安定的な販路の一つとして輸出が定着し、「国内外で選ばれる栃木の農産物」が実現

○県産農産物輸出額

令和12（2030）年度に県産農産物輸出額15億円を目標とし、その達成を目指す。



栃木県産農産物輸出促進方針の目標

とちぎグリーン農業の推進

地球全体が温暖化により大きな影響を受ける中、農業分野においても温室効果ガス削減等の取組が求められている。

県では、「とちぎグリーン農業推進方針」を策定し、生産・流通・消費の各段階における取組を関係機関が一体となり、多くの県民の理解と共感を得ながら「環境負荷の低減」と「収益性の向上」を両立する農業生産の実現に取り組んでいる。

〔令和6(2024)年度の主な取組〕

① 農業大学校における有機農業実践研修

有機栽培技術の普及拡大を図るため、県農業大学校において、有機農業の基礎的な技術や経営の知識等を習得する研修を開催した。

次年度以降も、内容を充実させながら、本格的に有機農業を始めようとしているより多くの方に技術普及を図っていく。

② とちぎグリーン農業推進シンポジウム

農業における環境負荷の低減の取組について、広く理解を深めてもらうため、水稻の有機栽培をテーマにシンポジウムを開催しました。農業者や消費者、学生など140名以上が参加した。

③ 畜産由来の温室効果ガス削減を目指す試験研究の取組

畜酪センターでは、地球温暖化対策として、4つの研究室で技術開発に取り組んでいる。

具体的には、乳牛については、牛の呼気中のメタンガスの測定方法の確立、肉牛については、メタン発生量を減らす資材(飼料添加物)給与効果の研究に取り組んでいる。

また、バイオ炭の子実トウモロコシへの施用影響調査や、牛のアミノ酸バランス飼料による堆肥化時の温室効果ガス削減実証試験も実施している。

これらの試験研究により、環境に優しく持続性の高い畜産経営の実現を目指している。



有機農業実践研修



グリーン農業推進シンポジウム



呼気中のメタン測定のための設備



飼料畑へのバイオ炭施用